

「わだつみ記念館」建設へご協力を！

日本戦没学生記念会

今から7年前の1993年、学徒出陣50周年を記念して、わだつみ会は「わだつみ記念館」の設立を提唱しました。この記念館建設事業は、先のアジア太平洋戦争において平和を望み学問を希求しながらも無念のうちに戦死した学徒兵の遺稿、遺品を中心に戦没学徒の記録を収集保存して、後世に残すべく計画したものです。

本会は1949年の『わだつみのこえ 日本戦没学生の手記』の刊行に「たえ、朝鮮戦争を目前にひかえた1950年4月、「わだつみの悲劇を繰り返すな」のよびかけのもと、世界と日本に平和を確保し、青年が再び戦争のために豊かなる将来を犠牲にすることがないように願って設立されました。また、1963年には、会は、先の大戦の悲劇が1931年の満州事変以来の日本のアジア侵略に淵源があったとの認識に立って、『戦没学生の遺書にみる十五年戦争』のち改題『第2集 きっかけ わだつみのこえ』を編集刊行いたしました。この両書は、戦前の「大日本帝国」から戦後の「平和と人権の日本」への価値転換を促した日本思想の古典として、これまでに200万を越える人々に読み継がれ、会の50年の活動とあいまち、「わだつみは古来の海」の意味に加えて、戦争の悲劇を繰り返さない」という独特の意味においても使用されるようになりました。本年には『新版 きっかけ わだつみのこえ』の英語完訳がアメリカで刊行されました。「わだつみ運動」は「いつ」国際的にも注目されております。

ところで学徒兵遺族の「両親の多くはすでに逝去され、健在のご兄弟姉妹も高齢化されるのはやむをえないことではありますが、残念ながらそれとともに戦没学徒の遺稿類が滅失、散逸する危険が増大しております。すでに焼失、紛失した遺稿も少なくありません。また、「遺族も戦没学徒を直接に知る家族、友人からその次の世代に移ります」と「いつ」でも遺稿、遺品の保存がままならない状況が生じます。そこで戦争から平和への転換の導きの文書となった戦没学徒の遺稿、遺品を保存する記念館の発足はますます猶予ならぬ「いつ」となりました。

さきの大戦を記録する施設は少なくありませんが、政府主導の戦争記念館や記念碑の多くは戦争を肯定し「英霊」を神格化・美化して、戦争肯定の風潮の拠点に利用されかねません。戦争を記録する記念施設は、平和を訴える「施設でなければなりません。そのために「わだつみ記念館」は戦没学生の遺稿、遺品、関連する文書記録 思想的資料の永久保存を軸に、特色あるものといたしたいと存じます。

募金運動の出発にあたっては募金目標総額の3億円の第1期目標を3000万円といたしました。これは1998年までには達成することができました。しかし小規模なものでも記念館建設には最低限50000ないし60000万円は必要です。財団法人化には3億円の基金が必要です。わだつみ会はここで改めて建設の趣旨を広め、2004年までの第2期の目標額を60000万円に定め、建設計画の実現に邁進する所存です。

皆さまには口頭のご理解と温かいご支援をいただいております。深く感謝いたすものです。ここに改めて「わだつみ記念館」建設の趣旨をご理解いただいて更なるご支援を賜りたいと存じます。

戦争の世紀であった20世紀の記録、なかんずく日本が関わったアジア・太平洋戦争の記録を21世紀に伝え、戦争のない永遠の平和の世界を確保しましょう。

2000年12月1日 わだつみ会設立50周年の「不戦の誓い」の日

日本戦没学生記念会（わだつみ会）

理事長 岡田 裕之

わだつみ記念館建設委員長 永野 仁